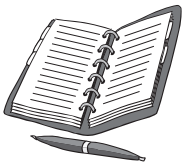
NEWS LETTER
甲南大学人間科学研究所

KIHS
Konan Institute of Human Sciences

2023 Vol. 40

今年度のニュースレターをお届けします。
第６期「過去と未来をつなぐ～危機の乗り越えに向けて」も３年目を迎え，ついに来年度で最終年度となります。未だ新型コロナウイルス感染症の流行は続いておりますが，人間科学研究所ではオンラインでの活動と対面での活動を組み合わせるなどして，時勢を鑑みながら活動の形を模索しております。今回は，昨年度後半に開催した５件の活動および本年度の７件の活動（開催予定の５件を除く）について，企画者（あるいは講演者）の先生にご報告いただきました。
2003 年に第１号を発行した本ニュースレターも，今号で 20 年，40 号目を迎えました。
今後も，次世代育成や子育て実践にますます注力しながら研究活動に取り組んでまいりますので，何卒よろしくお願い申し上げます。



活動報告

●2021年度の活動

「アニメとトラウマ」研究会

日　　時：2021年12月12日（日）　14:00〜15:00
場　　所：Zoomによるオンライン開催
企　　画：森　茂起（甲南大学文学部教授）
　　川口　茂雄（上智大学文学部准教授）
講　　師：足立　加勇（立教大学非常勤講師）
　　上尾　真道（京都大学研究員）

「アニメとトラウマ」プロジェクト研究グループでは、今回はクローズド形式の研究会を実施した。

『心の危機と臨床の知』21 号掲載の論文および年表ポスターと、2020 年 8 月に開催したシンポジウム「2010 年代アニメにおけるトラウマと最終戦争の表象――『魔法少女まどか☆マギカ』から『ケムリクサ』まで」との内容をひとつのベースとしつつ、戦中・戦後から 21 世紀現在にいたるまでの日本のアニメ作品・作品史を研究的に論じるための方向性の設定について、さらなる議論をおこなった。

一つひとつの作品が総合芸術であると同時に、総体としていまや長い歴史を有するアニメ文化にたいしては、学的研究の方法論が何層にもわたって分厚く整えられてゆく必要があるだろう。一つの作品の徹底的な分析、複数の作品の比較、表現傾向の変化／継承の時系列的な追跡、不況や大災害といった社会全体の転機の分析……、等々。

多角的な研究のあり方と可能性に目を配りつつ、今後、ひとつのまとまりをもつ書籍として研究成果を編纂することについても具体的で有意義な検討がなされた。

（文責：川口　茂雄）

【報告】甲南アトリエ 「『光る家』をつくろう」

作品制作：2022年2月21日（月）〜3月14日（月）
成果発表：2022年3月16日（水）〜3月22日（火）
場　　所：YouTubeにて動画を限定公開/甲南大学5号館1階　ギャルリー・パンセ
担　　当：服部　正（人間科学研究所兼任研究員）
講　　師：森　太三（美術作家）

造形ワークショップ「甲南アトリエ」を甲南大学地域連携センターとの共催で実施しました。講師に美術作家の森太三氏を迎え、地域の皆様、特別支援学校の生徒の皆様、障害者支援事業所の利用者の皆様などにご参加いただきました。ご自宅や学校などに制作キットを届け、デモンストレーション動画を観ながら制作に取り組んでいただきました。

作品は人間科学研究所に返送していただき、ギャルリー・パンセに展示するとともに、森先生の講評を動画で公開しました。

（文責：服部　正）

ワークショップ
発達障害や発達特性のある子どもの基本的理解と対応

日　　時：2022年2月26日（土）10:15〜11:45
場　　所：Zoomによるオンライン開催
担　　当：大西　彩子（人間科学研究所兼任研究員）
講　　師：望月　直人（大阪大学キャンパスライフ健康支援センター）

大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター准教授の望月直人先生を講師にお招きし、発達に課題を抱える子どもたちの支援の基本を学ぶことができるワークショップを開催しました。

新型コロナウイルスの感染拡大の状況から、Zoom を用いたオンラインに切り替えて開催となりました。

初めに発達障害の捉え方や考え方、発達障害の基本について講義形式で教えていただき、その後に具体的な行動で現状を把握し、支援方法を考えるためのワークショップを行いました。質疑応答の時間には参加者からたくさんの質問をいただきました。

また、「障害の捉え方や支援の仕方について、私が知りたい情報がたくさんあり、参加して良かったと思いました」、「ワークショップをすることにより、客観的に外から書き出すことによりとらえることの大切さがわかりました」などの感想をいただきました。

（文責：大西　彩子）

研究会
【報告】遊廓と娼妓：トラウマの視点から

日　　時：2022年3月8日(火)18:00〜20:00
場　　所：Zoom によるオンライン開催
企画・司会：森　茂起（甲南大学文学部教授）
話題提供：人見　佐知子（近畿大学文芸学部准教授）

近年、各地の遊廓跡に残る妓楼建築の保存や活用に関心が高まるなかで、歴史的な考察を欠いた取り上げられ方も散見される。本研究会は、遊廓をめぐる歴史と現状を、トラウマの視点を導きの糸にして考えることを目的として開催された。

人見佐知子先生は、遊郭の歴史学的研究を専門とし、本研究所の博士研究員を務められたのち、現在は近畿大学文芸学部・総合文化研究科で、近代公娼制度や性売買の歴史研究に携わっておられる。

発表では、まず各地の遊郭の「保存と活用」の実態が整理され、「負の歴史」を教育的に扱う一部の試みを除き、歴史的な検証の欠如、性売買の事実の封印などに至っていることが確認された。後半では、当事者の声を聞くための一資料として、金沢市内の娼妓小梅の手紙を読み解き、搾取や抑圧の構造を自覚することが困難だった娼妓を利用して公娼制度が維持されていたと指摘された。遊興空間を非日常として外から見る視点が娼妓の実態を覆い隠すことは、現在の遊郭の保存、活用にも見て取ることが出来る構造的な問題であるとされた。

話題提供後の討論では、歴史学、トラウマ学の両者から学際的な議論が展開され、今後の課題を確認して研究会を閉じた。

（文責：森　茂起）

研究会
子どもの哲学研究会「コロナ禍下でのp4c実践の実際と課題」

日　　時：2022年3月3日（木）16時〜17時20分
場　　所：Zoomによるオンライン開催
企　　画・司会：川口茂雄（上智大学文学部准教授）
講　　師：川﨑惣一（宮城教育大学教育学部教授）

秋には一時コロナウイルスをめぐる状況が改善を見せ、甲南大学での久しぶりの〈子どもの哲学〉実施の可能性が模索されたが、残念ながら2021 年度も小学生を大学キャンパスに招いての p4c 実施は断念されることになった。これに代えて、今年度はオンラインのクローズドの形態で、研究会「コロナ禍下での p4c 実践の実際と課題」を実施した。

仙台市内の小学校での実践においては、コミュニティボールを消毒しつつ p4c を限定的に実施した場合もあった（足でサッカーボールを蹴るかたちでの代用事例もあったという）一方で、輪になったりボールに触ったりということ自体を避けるべきとして、p4c が全面的に実施できない時期も長くあったという。また、オンラインでの p4c 実践は、国内外でこの間試みられてきたことの一つであるものの、川﨑先生の見方としては、やはりオンライン形態では p4c の根幹のひとつである「セーフティ」が十分には確保しがたい、という限界があるようにとらえられたとのことであった。家庭環境や、デジタル機器の有無および習熟度といった諸要素もそこに複雑に絡む。発言をする・しないといったことよりももっと手前にある、複数の人間が空間的にひとつの場を共有し、ひとつの時間をともに過ごすことの他に替えがたい意義について、このコロナ禍下で図らずも私たちが得た気づきを、今後状況が改善してきた際にいかに再起動し、いかにしてより多くの人々に伝えていくかが、いわば前向きな課題として見いだされた。

（文責：川口　茂雄）

●2022年度の活動

第13期　親子がホッとつながるグループ2022

日　　時：＜A日程＞2022年6月9日〜7月28日
　　＜B日程＞2022年9月29日〜11月24日
担　　当：北川　恵（甲南大学文学部教授／公認心理師・臨床心理士）
　　岩本　沙耶佳（甲南大学心理臨床カウンセリングルーム相談員／公認心理師・臨床心理士／「安心感の輪」子育てプログラム認定ファシリテーター）
　　甲南大学学部生11名、託児担当者2名
参加者：母親8名、子ども7名

毎年、地域の親子に参加いただいている「親子がホッとつながるグループ」は 13 年目を迎えました。今年もアメリカで開発された親子関係支援「安心感の輪」子育てプログラム（全８回）を実施しました。子どもを理解し、安心感を与える関わりについてのヒントになるような DVD を見ながら、ファシリテーターと一緒に話し合います。2022 年度は、３年ぶりに対面で実施することができました。ご参加くださった皆様からは、「子どもの気持ちに寄り添いやすくなった」「自分の状態を客観的にとらえる機会になった」「プログラムで学んだ『安心感の輪』の考え方は、これからも使っていきたい」などの感想を寄せていただきました。

来年度のグループは、Ａ日程 10 ～ 12 月 / Ｂ日程１～３月頃に開催予定です。子育て中の皆様にホッとしていただける場になることを願っています。参加者募集を年度初めに行いますので、ぜひご参加・お問い合わせください。

（文責：北川　恵・岩本　沙耶佳）

公開講座
第13回お父さん・お母さんのための子育て応援講座

実 施 日：2022年4月28日（オンデマンド配信：2022年5月6日～5月19日）
参 加 者：63名（内訳：対面講座22名：大人12名、子ども10名（託児7名／保護者同室3名）
オンデマンド配信41名：甲南大学学生34名、一般7名）
講　　師：北川　恵（甲南大学文学部教授／臨床心理士・公認心理師）
スタッフ：岩本　沙耶佳（甲南大学心理臨床カウンセリングルーム相談員／臨床心理士・公認心理師）

子どもの発達にとって大切なアタッチメントの視点を、保護者の皆様にわかりやすくお伝えするための講座です。子どもは、お父さん・お母さんが「安心基地」になってくれることで、不安なときは信頼できる人を頼りながら、自分でいろいろな挑戦をすることができる、そうした関係を築くうえで大切なポイントをお伝えし、質問にもお答えしました。この数年は新型コロナウイルス感染拡大のためにオンラインでの開催でしたが、今年度は３年ぶりに対面（託児併設）で行うことができました。また、当日の不都合や遠方の方のために、講座を録画し、オンデマンド配信も行いました。参加者からは、「アタッチメントの話がとても興味深かった」「大変わかりやすく、大切なポイントを教えていただいた」といった感想をいただきました。

また、人間科学研究所では「親子がホッとつながるグループ」という場で、良好なアタッチメントを育むための「安心感の輪」子育てプログラムを行っています。そのプログラムについても、講座でご紹介し、多くの方に参加申込をしていただきました。来年度も子育て応援講座の開催を予定していますので、ぜひご参加ください。

（文責：岩本　沙耶佳・北川　恵）

子育てライブラリー2022　第1回

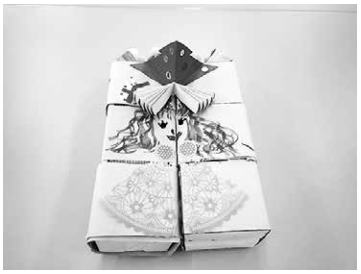
実 施 日 ：2022年4月28日
実施参加者：20名（保護者10名、子ども10名）
担　　当：北川　恵・岩本　沙耶佳（甲南大学心理臨床カウンセリングルーム相談員／臨床心理士・公認心理師）

人間科学研究所では子育て支援の一環として、絵本や紙芝居、育児関連の本などを地域の皆様に公開するイベント「子育てライブラリー」を開催しています。今年度の第１回目は、「第 13 回お父さん・お母さんのための子育て応援講座」と同日に開催し、絵本の読み聞かせや人形劇、手遊びを行いました。参加者からは、「子どもと参加できるイベントが少ないので、とてもよかった」「（子どもが）楽しそうに手遊びをしていた」といった感想をいただきました。

（文責：岩本　沙耶佳・北川　恵）

子育てライブラリー2022　第2回
『からくり絵本づくりワークショップ』

実 施 日：2022年7月30日（土）・8月6日（土）10：00～12:00
担　　当：北川　恵（甲南大学文学部教授／臨床心理士・公認心理師）・岩本　沙耶佳（甲南大学心理臨床カウンセリングルーム相談員／臨床心理士・公認心理師）
講　　師：村上祐喜子（手づくり絵本作家）
参 加 者：18名（7月30日）/13名（8月6日）



今年度の第２回目は、手づくり絵本作家の村上祐喜子先生を講師にお迎えし、牛乳パックを使った「からくり絵本づくりワークショップ」を開催しました。参加者からは、「子どもと一緒に想像したり、絵本を作ったりする時間をもつことができて楽しかったです」「大人も子どもも楽しい時間でした」「家族のコミュニケーションも増え、わきあいあいとした時間を過ごせました」といった感想をいただきました。

（文責：岩本　沙耶佳・北川　恵）

甲南アトリエ
第13回親子孫子で楽しむアート『アルコールインク・アートに挑戦！』

実 施 日：2022年8月20日（土）
企　　画：内藤　あかね（甲南大学人間科学研究所/客員特別研究員）
講　　師：椋田　三佳（美術家）

８月 20 日（土）、３年ぶりに 18 号館講演室にて対面でのワークショップを開催した。４組 10 名の方にお越しいただき、講師の椋田三佳先生のご指導をいただきながら、約２時間、活気あるクリエイティブな時間を過ごすことができた。

『親子孫子で楽しむアート』では毎回、家庭ではなかなか使う機会の少ない画材・素材を提供し、いろいろな表現方法を紹介している。今回使用した画材はイラスト用サインペンの補充用インク。アルコールを専用紙の上にスプレイし、その上に何色かの滴を重ねると、インクが自然に広がったり混ざったりして、様々な模様ができる。偶然の産物である色や形を味わいながら、少し乾かした後にさらにアルコールを吹き付けて混色を進めたり、模様を付けたりして、さらにイメージを発展させることができる。

どの参加グループも制作を開始すると、思い思いに色を紙に落とし、模様をつくっていった。大人が慎重に作業をし、偶然できた色・形から派生したイメージを主題化して創作していくのに比して、子どもたち（未就学児と小学生）は、実験精神を発揮して自分が楽しめる作業工程を見つけ、どんどん作品数を増やしていったのが印象的だった。本ワークショップをとおして、参加者が経験の幅を広げ、表現することの面白さを感じていただいたと思う。それと同時に、家族が日常とは異なるかかわり方で、アートを介してふれあい楽しむ時間を過ごされたと思う。

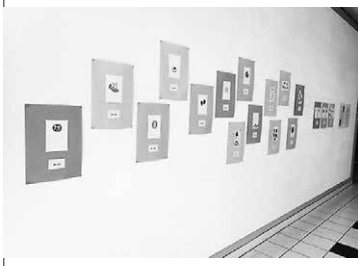
（文責：内藤　あかね）

甲南アトリエ

「山室眞二のじゃがいもデ版画ワークショップin 甲南アトリエ」

ワークショップ：2022年11月5日（土）
成果展覧会：2022年11月15日（火）～11月25日（金）
担　　当：川田　都樹子（甲南大学文学部教授）
講　　師：山室　眞二（版画家）
企画運営補助：長田　絵美（甲南大学大学院）

著名なじゃがいも版画家の山室眞二先生のワークショップをオンラインで開催した。予めｅメールで送られた「テキストブック」と「図案」にそって、先生のご指導のもとで基本テクニックを体得した後、先生の作品を「応用編」として鑑賞しつつ、その制作方法を教わった。司会は谷口あや（KIHS,PD)、「聞き手」兼「進行役」は、全体の企画者でもある長田絵美（人科,M2)。事後のアンケートは「大変満足」か「満足」との回答ばかりだった。



その後、ギャルリー・パンセで「成果発表展」を開催。山室先生の名作版画も同時に展観された。事後には、参加者の作品１点１点への先生からの講評が記載された『作品集』が各員に贈られた。

このワークショップの形態は、各家庭で準備可能な素材だけで開催でき、遠方からの参加も可能で、Web カメラごしに直接指導を受けられ、講師の手元をクローズアップ画面で常時見ることができる。対コロナ対策が必要な時代にあって理想的なモデルケースであろう。

（文責：川田　都樹子）

公開研究会

子どもの哲学「甲南高等学校における哲学対話〈生きることの意味〉を考える」

実 施 日：2022年11月12日（土）8:40-10:30
企　　画：西　欣也（甲南大学文学部教授）
講　　師：川﨑　惣一（宮城教育大学教育学部教授）

子ども達が答えの一つでない問いを共有し、みんなで意見を述べながら思考を深める「子どもの哲学（philosophy for children: p4c)」という教育・研究領域があります。甲南大学人間科学研究所では、川﨑惣一先生（宮城教育大学）を毎年講師にお招きして、そのとり組みを重ねています。 今回は対象年代を高校生に設定し、甲南高等学校における「哲学対話」の授業というかたちで企画が実現しました。テーマとしては〈生きることの意味〉が選ばれました。「〈生きることの意味〉と聞いて思いつくこと」から始まり「生きる意味はあった方がよいのか？」「よい人生とは？」といった、普段はあまり正面から考えたことのない問いかけを受けて、生徒たちは自由に自分の考えを説明したり他の人の答えをしっかり聴いたりすることで、思考力とコミュニケーション能力を磨く時間となりました。

また、神谷美恵子の「生きがい」やニーチェの「超人」の考え方を学び、今後の人生のなかで自ら考えていくヒントを得ることができました。

なお、今回の実践は、甲南中学･高校･大学 10 年一貫教育をいっそう密にしていくとり組みとしても意義あるものになりました。

（文責・西　欣也）

これからの活動

甲南アトリエ

「わたしの好きな神戸」
日　時：2023年1月28日(土)　10:00～12:00
場　所：甲南大学18号館3階　講演室
企　画：服部　正（甲南大学文学部教授）
講　師：光島　貴之（美術家）･高内　洋子（チーム光島スタッフ）

シンポジウム

ライフプラン教育シンポジウム
日　時：調整中
企　画：森　茂起

研究会

公開研究会「子育てと社会」
日　時：調整中
企　画：森　茂起

「アニメとトラウマ」
日　時：2月13日(月)　13:00～16:00
場　所：Zoom によるオンライン開催
企　画：森　茂起

ワークショップ

日記映画を作ってみよう！
初心者でもスマホで簡単､動画制作講座
日　時：3月11日(土)　10:30～16:30
場　所：甲南大学18号館3階　講演室
担　当：川田　都樹子（人間科学研究所兼任研究員）
　　森　茂起（人間科学研究所長）
講　師：寺嶋　真里（映像作家）

発行年月日：2023年2月25日

編集後記

本年度は，いくつかの活動を対面で実施することができました。新型コロナウイルス感染症の流行当初は対面での活動が制限されたことが大きな痛手となりましたが，現在はオンラインによる活動を通して，地域の枠組みを超え，より多くの方にKIHS の活動を知っていただく機会を得られているのではないかと思います。

私自身は着任１年目で，多くの方に助けられ，手探りの中で１年を終えました。来年度も，これまで綿々と続いてきた KIHS の活動を繋げていけるよう邁進してまいります。

KIHS NEWS LETTER 2023
Vol. 40 発行
甲南大学人間科学研究所　Konan Institute of Human Sciences
〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1　甲南大学18号館内 Tel/Fax：078-435-2683 E-mail：kihs@konan-u.ac.jp Web-site：https://www.konan-u.ac.jp/khs/